37509　札幌市立星置中学校
令和６年３月 27 日
札幌市立星置中学校

令和５年度　自己評価書及び学校関係者評価書

１　本年度の重点目標

子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり

２　本年度の学校運営の重点

（１）「人間尊重の教育」
（２）「学ぶ力の育成」の充実～「わかる」「できる」「楽しい」教育の実践
（３）「豊かな心の育成」「健やかな身体の育成」に関すること
（４）「特色ある学校づくり（札幌らしさ・星置らしさ)」「教科等の枠組みを超えた教育」に関すること
（５）「子どもの発達への支援」に関すること
（６）「信頼される学校の創造」に関すること

３　自己評価結果に対する学校関係者評価

【評価の方法】

○自己評価の達成状況の数字は、教職員による学校評価アンケートの集計結果であり、下のＡ～Ｄの４段階で評価した人数を４段階で表した。（Ａ：４点、Ｂ：３点、Ｃ：２点、Ｄ：１点）

［Ａ　よくあてはまる　　Ｂ　ややあてはまる　　Ｃ　あまりあてはまらない　　Ｄ　まったくあてはまらない］

自己評価の達成状況は、Ａ（十分である）　：　３．０～４．０
Ｂ（概ね十分である）　：　２．０～２．９
Ｃ（不十分である）　：　１．５～１．９
Ｄ（改善を要する）　：　１．０～１．４

○反省と改善の方向性の内容は、教職員による学校評価アンケートや保護者・生徒へのアンケート、反省職員会議の結果及び１年間の業務遂行状況を勘案し、自己評価したものである。

学校関係者評価（自己評価の適切さ・改善策の適切さ）
Ａ：よくあてはまる・十分達成されている
Ｂ：だいたいあてはまる・おおむね十分である
Ｃ：あてはまらない・不十分である

分野	評　価　項　目	自　己　評　価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	学校教育推進の重点は学校や生徒の実態からみて適切であった。	A	学校教育推進の重点は的確であった。現状に満足することなく、重点目標を保護者・地域に発信していく。	A	A
	教育推進重点の内容に関して、全教職員の共通理解が図られて学校内外に周知されている。	A	諸会議を通して、重点内容の共通理解を図ることができた。今後も工夫しながら、重点の確認を定期的に行い、学校運営に努めていく。	A	A
	教育推進の重点項目は適切で、具体化され連携、協同体制が図られている。	A	重点目標達成のために校務・学年が具体的な目標と計画を設定することができた。今後もさらに研鑽を重ねていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・小中一貫した教育の事業が充実してきていることを考えると、パートナー校同士が情報を共有していくことが必要であろう。				

分野	評　価　項　目	自　己　評　価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	生徒に気づかせ、育てる授業を行うなど、生徒を主体とした授業を実践できた。	A	生徒が主体的に考える授業づくりを行うことができた。より一層、主体的かつ思考力を育む授業づくりに取り組んでいく。	A	A
	基礎・基本の定着を図るための授業の工夫･改善を行えた。	A	基礎・基本の定着を図ることができるような授業づくりを目指し、今後も工夫・改善を行っていく。	B	A
	生徒一人一人の良さや可能性を伸ばす授業を実践できた。	A	生徒にとって TT 指導や少人数指導がより効果的なものになるように、さらに検討を進めていく。	A	A
	生徒・保護者が納得できる評価・評定を行えた。	A	これからも教科間の評価方法の共通理解を強めつつ、信頼性と妥当性を高めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・学習面における基礎基本の定着について、札教研事業を活用しながらパートナー校同士で協力出来たらよい。				

分野	評　価　項　目	自　己　評　価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	指導の中で、すき間をつくらないよう協力・連携することができた。	A	教職員間で協力・連携を意識した生徒指導を実践できた。さらに共通理解をはかり、きめ細やかな指導を目指していく。	A	A
	受容・共感的な態度で接し、生徒理解に努めることができた。	A	おおむね目標を達成していると考えるが、さらに情報の共有を心がけ、教育相談活動の充実を目指していく。	A	A
	事故の情報の綿密な交流を図り、共同して指導を行えた。	A	情報の綿密な交流については、今後もさらに強化を図っていきたい。また、特別支援学級との連携も継続していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・小中の情報共有を密にしていってほしい。				

分野	評　価　項　目	自　己　評　価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
心を育てる教育	諸行事・諸活動を通し、豊かな心を育むことに努めた。	A	コロナ禍による活動の制限がなくなった中、諸行事・諸活動を行う上で、より生徒に寄り添った活動を計画していく。	A	A
	諸行事・日常生活の中で、強い意志・実践力を育てられた。	A	各種取組に対して意欲的な生徒が多いが、強い意志・実践力を十分育成するまでには至らなかった。今後も諸活動と実践力のつながりを考えた活動の充実を図っていく。	A	A
	奉仕活動や当番活動を通し、思いやりの心や勤労意識に対する関心を育てられた。	A	奉仕活動や当番活動の機会が減る中、より工夫した活動を行うことで、心の成長を促すことができるような活動に取り組んでいく。	A	A
	道徳の時間を通し、いじめや不登校、命に対する指導を行えた。	A	各学年、道徳の時間を通して心を育む教育を行うことができた。年間を通して、計画的に取り組む工夫を継続して行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・学校に登校したくなるような、学校づくりを心掛けていってほしい。				

分野	評　価　項　目	自　己　評　価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
組織・研修	校務・分掌間で円滑な連携が図られ、有機的に機能していた。	A	校務・分掌間での円滑な連携は図れていたが、まだ十分ではなかった。情報共有をしっかり行いつつ、よりきめ細やかな対応ができるようにしていく。	A	A
	各学年・学級の運営方針が具体的に実践されていた。	A	各学年の運営方針や指導目標に準じた活動を概ね実践することができた。今後もより具体的に実践していく。	A	A
	校内や教科での研究・研修が充実しており。実践されていた。	A	校内研修では今年度も小学校の授業参観を行うことができた。これを機に、教科指導をはじめ、学級経営等、小中一貫した教育をより一層推進していく。	A	A
	評価基準・方法が適切に説明され、情報として提供されていた。	A	教育課程説明会や期末懇談等において、評価基準・方法に関して適切に説明することができた。評価に関してはより一層理解を深め、改善を加えながら実践していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・　長期休暇が小中で一緒になることから、メリット・デメリットを明確にして、交流を有効に行っていってほしい。				

分野	評　価　項　目	自　己　評　価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
地域との連携	地域の特色を生かした教育活動を行えた。	A	総合的な学習の時間やキャリア教育に関して、地域人材を活用した取組を行うことができた。次年度以降も継続して行っていく。	A	A
	関係諸機関との連携を適切に行えた。	A	関係諸機関と必要に応じて連携を図ることができた。地域との連携に関しては、新たな取組を行うことができ、次年度以降も継続して進めていく。	A	A
	家庭への連絡をきめ細かく行い、家庭との連携が図られた。	A	家庭への連絡をきめ細かく行い、連携を図ることができた。さらに強いつながりをもてるよう、工夫して取り組んでいく。	A	A
	学校便りなどが地域に配布され、教育活動への理解が図られた。	A	緊急連絡時や行事でのホームページの活用に加え、新たに保護者アンケートでの活用も行うことができた。今後も、地域への情報発信の場として活用していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・地域学校協働活用事業によって、中学校と地域がより結びつきを強くしてきているので、このまま継続した活動にしてほしい。				